

# 英語学校があるフィリピンの都市



コールセンター等、高層ビルが林立するボニファシオ地区(上)  
マニラ湾沿いのロハス大道通り、中央は文化の殿堂、フィリピン文化センター(右)

## 西ビサヤ地区の古都 イロイロ Iloilo

パナイ島イロイロ州の州都イロイロは、西ビサヤ地区では最古の歴史を持ち、経済の中心地としても発展しています。世界遺産のミガガオ教会をはじめ、モロ大聖堂、サン・ホアキン教会、ハロ大寺院他、スペイン統治時代のコロニアル建築物等、往時を偲ばせる見どころがたくさんあります。また、フィリピンでも有名な大学が多くあり、有能な先生が多いと言われていて、英語留学の環境も整っています。週末には近くのギマラス島やボラカイ島のリゾートを訪ねてみるのも楽しみです。

【マニラから空路で約1時間20分】



スペイン時代を偲ばせるコロニアル風邸宅

## 目覚ましい発展を続ける国際都市 マニラ Manila

フィリピンの首都マニラは、歴史遺跡が多く残されているオールド・マニラと大規模な開発が進行中のマニラ湾沿いのペイエリア、商業・経済活動の心臓部として成長を続けるマカティ地区、そして現在の経済発展のシンボル的な存在であるボニファシオ地区とターミナル3空港前のアミューズメント・エリアを含み「メトロ・マニラ」と呼ばれ、また、新興都市アラバン等の隣接するエリアを統合して「グレーター・マニラ」とも呼ばれています。美しく整備されたショッピングエリアやコンドミニアム、そしてコールセンター等の高層ビルと共に歴史的建造物が混在する不思議な魅力を持つ都市マニラは、英語留学のみならず、ビジネスにも観光にも、ゴルフ、ダイビング、カジノ等の娯楽にも、すべての環境が充実している国際都市です。なお、隣接する新興都市アラバン(Alabang)やマニラ近郊の景勝地として名高いタガイタイ(Tageytagay)にも環境の整った英語学校があります。



## ネグロス島の中心都市 バコロド Bacolod

ネグロス・オクシデンタル州の州都バコロドは、別名「砂糖の首都」と呼ばれ、国内の約6割の砂糖がこの地域で生産されます。砂糖の収穫期の11月～4月にはサトウキビの運搬用として活躍する蒸気機関車(SL)は当地の風物詩ですが、砂糖ビジネスの停滞と共にSLの活躍場面も減ってきてているようです。毎年、10月第3週末に開催され、参加者全員がニコニコ顔のお面を被りパレードする「マスクラ」(Masskara Festival)は、バコロド市最大の行事です。

【マニラから空路で約1時間10分】



“笑顔の祭り”マスクラ・フェスティバル

## フィリピン随一のリゾートアイランド セブ Cebu

フィリピンのほぼ中央に位置するセブは周辺のボホール、レイテ、ネグロス、パナイ等のビサヤ地区の中心です。国際空港があるマクトン島(Mactan Island)には様々なカタコーリーのリゾートやダイビングエリアが点在しています。また、古都の香り漂うセブ市(Cebu City)には往時を偲ばせる歴史遺跡が多数保存されている一方で、大規模なショッピングセンターや近代的なビジネスパーク、それにコールセンター業務を中心するITパークなどが開発されています。

【マニラから空路で約1時間】

セブ、マクタン島のリゾート群(下)  
セブ市内、コールセンターの高層ビル群の開発が進むITパーク(右)



## 軽井沢のように過ごしやすい高原都市 バギオ Baguio

ルソン島北部、山岳地方の中心都市。マニラからは約300km、標高1,500mにあり、フィリピンには珍しい松林が広がる町で、日本の軽井沢にも例えられる避暑地として有名です。マニラから北上し、バギオの入り口となる峻険なケノン道路は、戦前、日本人労働者によって作られたもので、そのままこの町に定住した日本人も多く、また、戦没者慰靈碑もあり、何かと日本との関係が深い町です。一年を通して涼しく、静かな環境は勉学には最適で、フィリピン英語留学のブームがこの地バギオから始まったということもけげます。

【マニラからバスで6～8時間】



バギオへの入り口ケノン道路(上)  
松林に囲まれるライ・パーク(左)



## 欧米人が多く住む近代的な経済特別区 クラーク・フリーポート Clark Freeport Philippines

マニラから北へ約90km。以前、極東最大の米空軍基地として使用されていましたが、1991年にフィリピンに返還、1993年には経済特別区に指定され、海外からの企業が進出し、2007年からは「クラーク・フリーポート」として経済発展を遂げています。クラーク空港から韓国、中国、台湾、香港等の国際線をはじめ、セブ、ボラカイへの国内線が就航しています。米軍基地であったことから、住宅などの生活関連インフラが整備されていることに加え、病院や学校、ホテル、レストラン、ボーリング場、ゴルフコース等、都市としての施設や設備が整っています。また、20世紀最大規模の爆発を引き起こした「ピナツボ山」ツアーも楽しめます。最寄りの都市はアンヘレス(Angeles City)。なお、旧米海軍基地の「スビック」(Subic)及び砂糖とお米の肥沃の地であり、アキノ大統領ファミリーゆかりの地「タルラク」(Tarlac)の町にも英語学校があります。

【マニラから車で約2時間】

火山の大爆発によってできた  
ピナツボ山のクレーターレイク



サマル島のダバオ・パール  
ファーム・リゾート(左)  
フィリピンの最高峰、アボ  
山(下)



## ミンダナオ島の中心都市 ダバオ Davao

ミンダナオ島の中心都市ダバオは、マニラ、セブに次ぐフィリピン第3の都市で、良港ダバオ湾を擁し経済的にも活況を呈しています。戦前にはマニラ麻の栽培に従事した日本人も多く、今もその子孫が多数おり、日本との関係が深い都市です。フィリピンの最高峰アボ山、国鳥フィリピン・イーグル、ラン(フリンワリン)の花、ドリアン、先住民族文化、サマル島のビーチリゾートでのマリンスポーツ等、多彩な魅力をもっています。

【マニラから空路で約1時間45分】